

3

(1)精密検査～診断

検診後の精密検査で良性か悪性かを確定

乳がん検診やセルフチェックで異常や*病変が見つかった場合は、異常や病変をさらに詳しく調べる精密検査が行われます。

精密検査では、確定診断のためのマンモグラフィや超音波検査を行います。その結果、乳がんが疑われる場合、がん細胞の有無を調べる「細胞診」「組織診」が行われて良性か悪性かが確定され、がんが診断されます。

精密検査を受ける人の約95%以上が良性と診断されます。良性の診断が早くつくためにも、また悪性の場合は今後の治療を早く始めるためにも、精密検査が必要になったら速やかに検査を受けることが大切です。

さらに、精密検査で悪性と診断され、乳がんが確定した後は、MRI（磁気共鳴画像）検査やCT（コンピュータ断層撮影）検査で乳がんの広がりや進行度を調べることで今後の治療方針が立てられます。

こうした、セルフチェックから乳がん確定までの流れは、右ページにあるような「乳がん検診・診断のフローチャート」としてまとめられ、各医療機関で行われています。

この流れに沿って診断を受けることが、見落としや過剰な診療を避けることになります。



*病変：乳がんの場合のしこりなど、病気による生体の変化

図8 乳がん検診・診断のフローチャート
乳がんの「検診→精密検査→診断」までの流れ

